証券コード 6405

SUZUMO REPORT

第 63 期
2022年4月1日～2023年3月31日

Index

トップメッセージ …… P.01
第 63 期総括と次期の展望

特集 …… P.03
第 64 期以降に向けた経営の成長戦略

TOPICS …… P.05

アンケートのご報告 …… P.07

財務ハイライト …… P.08

WE LOVE RICE SUZUMO

トップメッセージ

株主の皆様には日頃より
格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます

第63期総括と次期の展望

代表取締役社長　鈴木 美奈子

第63期を振り返って

2023年3月期、第63期に当たる今期は増収減益という結果になりました。未だコロナ禍を引きずる環境下でありますが、外食や小売業においては省人化の動きは加速している状況で、それに伴う製品需要という点においては高い水準で推移しております。

売上高につきましては、計画の130億円を上回ることはできたものの、利益額は計画に届かず30%以上下回り、下方修正をするという結果になりました。

第63期は、製品材料費、原材料費の高騰を始めとする原価率が上昇し、さらに、固定費や諸経費の増加によって利益が減少するというコストに対する統制が不足した年度でもありました。今後は、コストに対する感覚をよりシビアに、より高く持った上で臨まなければならないと考えています。しかし、事業成長に必要な投資とのバランスを見極めながら進めていくことが重要で、企業価値の向上に資する経営判断を行っていきたいと考えています。

次期以降は、第63期の状況を心して踏まえ、中期経営計画Growth2025の最終年度である第65期に向けた取り組みを確実に行なってまいりたいと思っております。

第64期の見通し

第64期の事業環境は、外食、小売業において原材料費や人件費のさらなる高騰は必至な状況です。しかし、経済社会活動の活発化に伴って、さらなる省人省力化等の設備投資が加速をすると考えております。

売上高につきましては、中期経営計画Growth2025の目標額150億円、この達成を一年前倒しにして第64期売上高の目標額として掲げております。営業利益につきましては、中期経営計画には及ばないものの15億円を目標に進めてまいりたいと思っております。

国内事業は、引き続き大手回転寿司チェーン店様の大型需要を抱えており、レストランやホテルのビュッフェでのセルフ需要も、コロナ明けの経済活発化による拡大が見込まれます。とりわけ最終消費者の方々に操作をしていただく、ご飯盛付けロボット「Fuwarica」のセルフ需要がさらに伸びていくと考えております。3年以上にわたるパンデミックによって、衛生への意識がお客様と事業者様の双方に大きく芽生えていますので、当社の重点施策の一つでもあるFuwaricaによるセルフ化を積極的に進めていきたいと思っています。
海外事業につきましては、ロールタイプの巻き物が主流の北米・欧州向けの新型の海苔巻きロボットをメイン商品として販売に力を入れてまいります。また東アジア・東南アジア市場は日系企業の進出がめざましく、この流れはさらに拡大すると思っておりますので、お客様に対するサポートをこれまで以上に厚く丁寧にケアしてまいりたいと考えております。

成長への鍵となる新規事業

新規事業に関しましては、AIを使った店舗における自動配席のシステム開発に着手しています。熟練スタッフの知見を取り入れ、来店したお客様をスムーズにお席へ誘導するシステムで、実際の店舗での試験導入を行なっています。
米飯加工機械メーカーから店舗業務効率化まで、SUZUMOは成長への道を着実に歩んでおります。

役員体制の変更

第64期から代表取締役及び執行役員の異動を行なっております。代表取締役につきましては、私に加え取締役専務執行役員の谷口徹を代表取締役副社長執行役員といたしました。
近年、経営の環境が大きく変化、複雑化していく中では迅速なアクションが求められます。そこで代表権を持つ取締役を2名体制とし、タイムリーかつ的確に経営判断をしていきたいと考えております。
また、執行役員営業本部長の中村健司をSUZUMOグループの「株式会社日本システムプロジェクト（以下、JSP）」代表取締役社長にいたしました。当社の営業部門で培った経験を踏まえて、今後SUZUMOとJSPで創り上げるソリューション事業を拡大していくことが目的の一つであります。中村の後任には、副本部長の永元禎人を執行役員営業本部長として第64期をスタートしております。

特集

第64期以降に向けた経営の成長戦略

代表取締役副社長
谷口 徹

執行役員及び社員の意識改革で事業のさらなる成長を目指す

第60期にスタートした中期経営計画が残り2カ年となった今、売上高は一期前倒しで計画達成となる見込みですが、利益の方は、計画の22億5,000万円クリアに向けていかに動けるか、がポイントとなります。もともと中期経営計画を発表した際、数字面の達成だけではなく、SUZUMOの成長ビジョンを明確に打ち出すことに意味がありました。B to Bの機械メーカーである当社が、食の事業者の経営の課題や悩みに対して頼りになるパートナー、役に立つ会社になっていこうという決意表明であり、それをSUZUMOの今後の役割でありポジションにしていこうという考えでした。3年半経過し、少しずつではありますが目指す会社の姿、なりたい未来に着実に近づいていると感じています。

ビジョンを実現する上での一番のハードルは、人の意識だと思います。機械メーカーとしての既存事業は順調に拡大を続ける中で、単に機械を販売するというだけではなく、お客様に対して様々な形でソリューションを提案することができるか、ということが重要になってきます。そういう意味では社員の意識、視野がかなり広がったと感じます。SUZUMOの機械を単に販売するということに留まらず、ホール及び店舗全体を含めたお客様のコスト削減につながるような提案ができるようになりつつあると思っています。

シナジー効果を最大限に生かし新たな事業開発に力を注ぐ

一年前に立ち上げた新製品や新事業を企画・検討する事業開発室を、この4月から企画開発部に格上げし、SUZUMOが目指す姿を実現するための開発機能強化をはかっていきます。当社、グループ会社、AIのベンチャー会社やロボティクス関係の事業者等との協業を進めることで、今後お客様に提供できる価値はより高まってくると考えています。

先日、東京で開催したSUZUMOフェアでは、SUZUMOグループが、未来のオペレーションの在り方を提示提案できたことはたいへん意味深く、2年半取り組んできたことが前に進んでいるということを実感しています。SUZUMOの機械は、これまで単体で省人化やオペレーションの効率化に価値を提供してきました。今回のSUZUMOフェアでは、グループの共同開発によるシナジー効果で開発した画期的なオーダーシス

テムや無人配席システムを展示しました。外食のお客様を元気にするための新しいものを展示会でお見せできたことは大きな成果と言えます。

SUZUMOの未来を創る、新工場用地を取得

当社は、35年近くに渡り、東京工場（埼玉県比企郡川島町）において、国内及び海外のすべての製品のモノづくりを行ってきました。SUZUMOの成長とともに生産能力を拡大してきましたが、ここ数年の需要増加によって生産キャパシティーが限界を迎えつつあります。

新工場（第一期）を2026年3月に、埼玉県鶴ヶ島市に竣工稼働を予定。将来的には現工場からの完全移転を視野に入れていることもあり、現工場で働いている社員の通勤、生活になるべく影響がないという点も考慮しながら周辺の土地を探していたところ、埼玉県からの用地取得が実現。この3月、売買契約を締結しました。新工場建設予定地はハザードマップ上も安全とされる立地で、先端テクノロジーの企業を積極的に誘致しているエリアとなっています。当社のSDGsへの取り組み、食の未来に貢献していく確かな技術力を持った企業、ということを埼玉県から評価いただいた結果の用地取得であると考えております。

新工場建設は将来の需要拡大を見据え、さらなる生産能力の増強を目的としていることは言うまでもなく、「SUZUMOのモノづくりの未来」をしっかり描きながら、地域との共生共存を考えた工場にしていきたいと考えています。新たに工場ができるということは、周辺地域の雇用の創出につながることはもちろん、子どもたちの社会科見学の場として活用していただいたり、地域住民の皆様には工場見学などを通じてSUZUMOの取り組んでいるものを身近に感じていただくことも大切だと思っています。何より、一人でも多くのSUZUMOファンが増えることを願っています。

中長期的な視点で、株主還元を判断

決算短信でお示しした通り、2023年3月期の年間配当金は31円、2024年3月期の年間配当予想も同額の維持を発表しました。前期は当初の利益計画は達成できませんでしたが、中長期的な視点から配当金は変えないという判断をいたしました。配当性向は、前期が48.5%、今期については、39.3%になります。昨年度変更した株主還元方針では「総還元性向30%以上」と掲げておりましたので、ここは最善の頑張りで前年の配当額を維持したことを何卒ご理解いただけますと幸いです。

6月の株主総会は交通アクセスも良い中野の新オフィスビルでの開催となり、たくさんの株主様にお越しいただけたらとの思いから昨年より土曜日開催にしました。今回の株主総会は、株主の皆様にSUZUMOを知っていただく良い機会と捉え、総会終了後に主なSUZUMO製品を実際に稼働しながらの説明会も行いました。

今後も、様々な機会を通じて、投資家や個人株主の皆様に積極的にIRの発信をしてまいりたいと考えています。

Topics ① 役員体制の変更

執行役員および営業本部長就任にあたって

執行役員　営業本部長
永元 禎人

鈴茂器工(株)レガシーを引継ぎ、64期以降の中期基盤構築を行う大役を担うことになりました。たいへん身の引き締まる思いです。
コロナ禍や地政学的変動の影響等により世界的なインフレの波が押し寄せる今、当社も環境変化への対応が急務となり岐路に立っています。
当社社是に「誠実 情熱 創造」と記してある通り、私(当社リーダー達)は、この危機感を自分事として「誠実」に捉え、環境の変化に応じて自分自身を変容しレジリエンスを高め、「情熱」を持って考え会社をリードし成長させ、経済的&社会的価値を「創造」していく役割を担っていきます。何卒ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

DXで飲食業界の困りごとを解決したい

株式会社日本システムプロジェクト
代表取締役社長
中村 健司

5月より新型コロナウィルスの分類が5類に引き下げられ、今までご苦労されてきた飲食業界にも活気が戻ってきています。しかしながら慢性的な人手不足は今後も解消されるわけではありません。日本システムプロジェクトはSUZUMOグループの一員として人手不足をDXで解決し、お客様の売上利益に貢献していくことがミッションだと考えています。今まで培ってきたバックヤードの効率化・省人化ノウハウとフロアの効率化・省人化を掛け合わせることにより、顧客満足の最大化を目指します。
当社はこれからも飲食業界のパートナーとして尽力してまいります。

NEWS

SUZUMOグループの新たなソリューションを目指したコンセプトモデルを出展

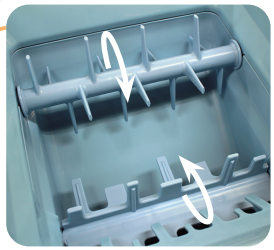
2023年4月に「SUZUMOフェア東京2023」を池袋(東京)で開催しました。延べ2日間で450社/730名を超える来場をいただいたことに加えて、TVや業界誌など多くのメディアにも取り上げていただきました。
今後のSUZUMOグループの取り組みを展示した『Future Zone』では、2つのコーナーを設けました。

1つ目の「SAV(Suzumo After Value)コーナー」では、当社の機械から稼働状況や生産量などのデータを収集し遠隔管理することでアフターサポートの質の向上をはかるとともに、「天気」や「人流」などの外部データと組み合わせることで需要予測に活かすなど、IoT技術を活用し納品後に新たな価値を創出するビジョンを展示しました。

Topics ② 株主さま向けアンケート　Pick Up コーナー！

SUZUMOの原点!寿司ロボットをご紹介!

業界最速時速4,800貫!
寿司ロボットの世界シェアNo1!



ほぐし
コメという軟質、粘質な素材をふんわりと仕上げるため、練らず、潰さず「ほぐす」

計量
コメと空気が混ざって美味しいシャリ玉を生み出すことから、空気量とコメの体積を合わせた「計量」

成形
空気を含んだコメを崩さず、また一粒一粒の粒感を保った状態で、口どけの良いおいしいシャリ玉を「成形」

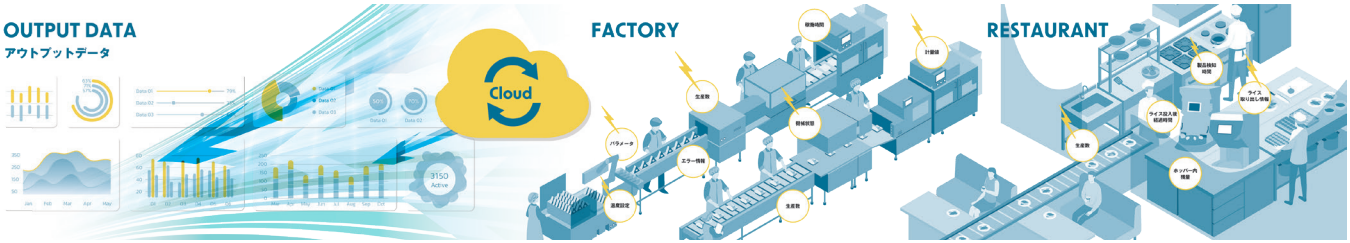
寿司ロボット
1号機(1981)

寿司ロボットの誕生は創業者の熱い思いから

開発のきっかけは、政府の「減反政策」への憤りから。創業者の銀シャリへの思いが、より安く身近に寿司を味わえる製品開発へとつながった。

そうした思いから生まれた寿司ロボットは、国内外に回転寿司の発展と大衆化を広めた原動力になり、その功績が認められ、寿司ロボット1号機が2021年度機械遺産に認定されました。

主な活躍場所は、回転寿司チェーン店、スーパーマーケット、テイクアウト店、セントラルキッチン。中にはお菓子の成形に使用しているお客様やバラエティ番組への出演実績もあり!

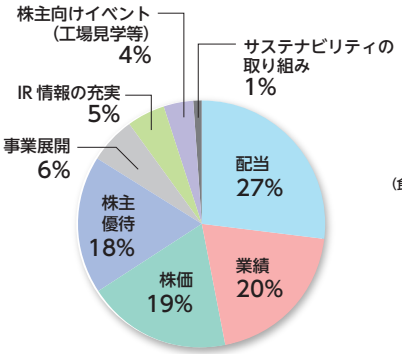


2つ目の「次世代店舗コーナー」では、SUZUMOグループの製品とも連携させ、受付から会計までの一連の工程を自動化することで飲食店舗の省人化と生産性向上を目指したコンセプトモデルを展示しました。

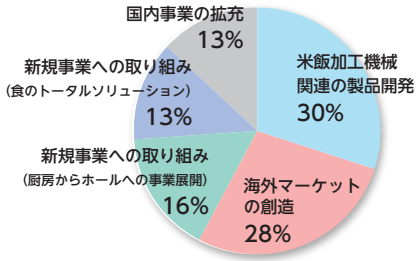
今回展示した内容は、複数の企業が持つ製品と連携することで実現しました。様々な企業とタッグを組んで開発のスピードを早めつつ、完成度の高い開発に臨んでいく、これからの当社の姿勢も体現することができたと感じております。

アンケートのご報告

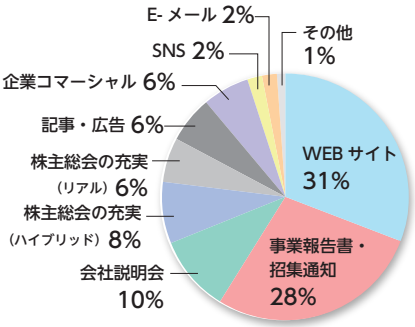
前回発行しましたSUZUMO REPORT(第63期中間)でご協力のお願いをいたしました結果、
多くの株主の皆様にご回答をいただきました。誠にありがとうございました。
皆様の声を今後の経営に役立てるべく活用させていただきます。
以下にご回答の内容を一部抜粋にてご報告申し上げます。



今後期待するもの
（複数回答）



事業や取り組みへの関心事項
（複数回答）



情報提供手段として望ましいもの
（複数回答）
＊特になし回答を除く

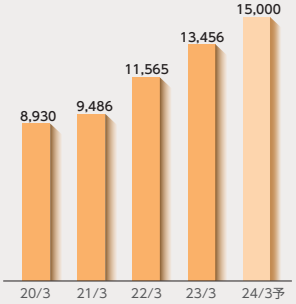
Financial highlights

財務ハイライト

売上高（単位：百万円）

13,456 百万円

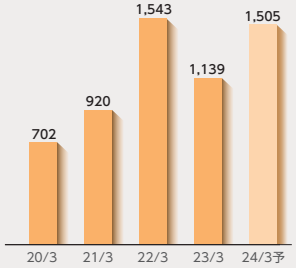
前期比 16.3%増



経常利益（単位：百万円）

1,139 百万円

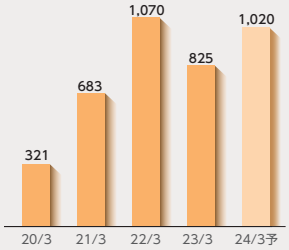
前期比 26.2%減



親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）

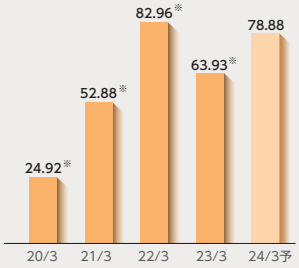
825 百万円

前期比 22.8%減



一株あたりの当期純利益（単位：円）

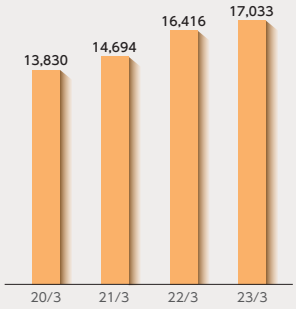
63.93 円



※当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮し、遡及して調整しております。

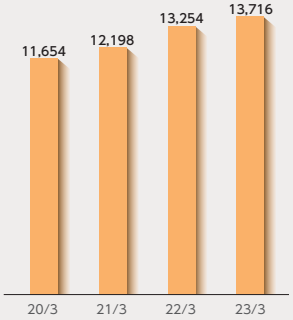
総資産（単位：百万円）

17,033 百万円

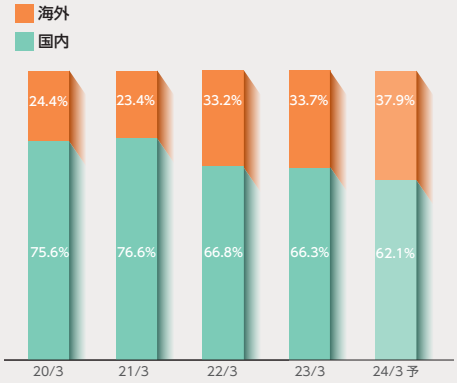


純資産（単位：百万円）

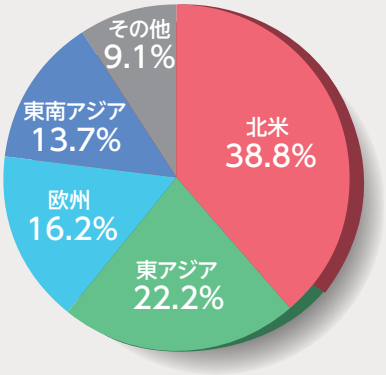
13,716 百万円



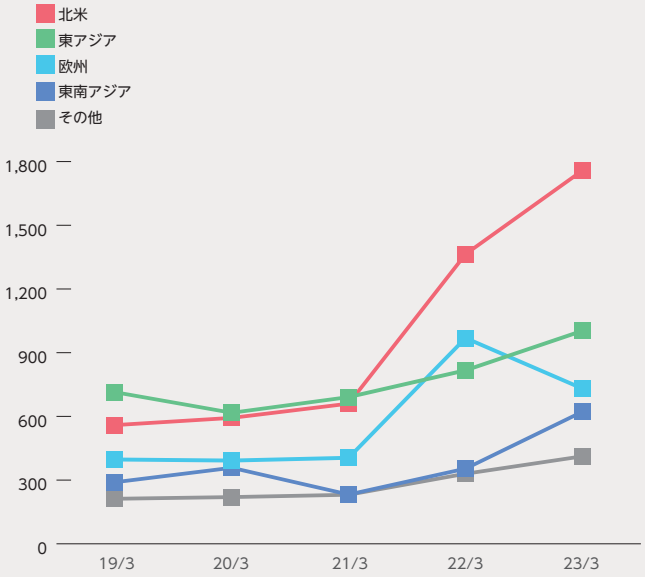
国内外の売上比率



海外の地域別売上高の割合



海外の地域別売上高の推移（単位:百万円）



Overview of the consolidated financials statements

連結財務諸表（要約）

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当期 2023.3.31現在	前期 2022.3.31現在
資産の部		
流動資産	9,685	12,085
現金及び預金	4,865	8,276
受取手形及び売掛金	1,577	1,287
電子記録債権	168	172
たな卸資産	2,762	2,199
その他	312	150
固定資産	7,347	4,330
資産合計	17,033	16,416
負債の部		
流動負債	1,802	1,775
固定負債	1,514	1,386
負債合計	3,316	3,161
純資産の部		
株主資本	13,607	13,205
その他の包括利益累計額	83	30
非支配株主持分	25	17
純資産合計	13,716	13,254
負債純資産合計	17,033	16,416

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	当期 2022.4.1～2023.3.31	前期 2021.4.1～2022.3.31
売上高	13,456	11,565
営業利益	1,203	1,517
経常利益	1,139	1,543
親会社株主に帰属する当期純利益	825	1,070

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	当期 2022.4.1～2023.3.31	前期 2021.4.1～2022.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	△11	1,340
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,062	△ 268
財務活動によるキャッシュ・フロー	△463	△ 194
現金及び現金同等物に係る換算差額	105	55
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,431	933
現金及び現金同等物の期首残高	8,276	7,342
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,865	8,276

会社概要 （2023年3月31日現在）

商　　号	鈴茂器工株式会社 （英文名：Suzumo Machinery Co., Ltd.）
設　　立	1961年1月13日
本　　社	東京都中野区中野4-10-1 中野セントラルパークイースト6階（〒164-0001） TEL.03-3993-1371(代)
資 本 金	11億54,418千円
事業内容	寿司ロボット、盛付けロボット等の米飯加工機械の製造・販売など
従業員数	481名（2023年3月末現在）
U R L	https://www.suzumo.co.jp/

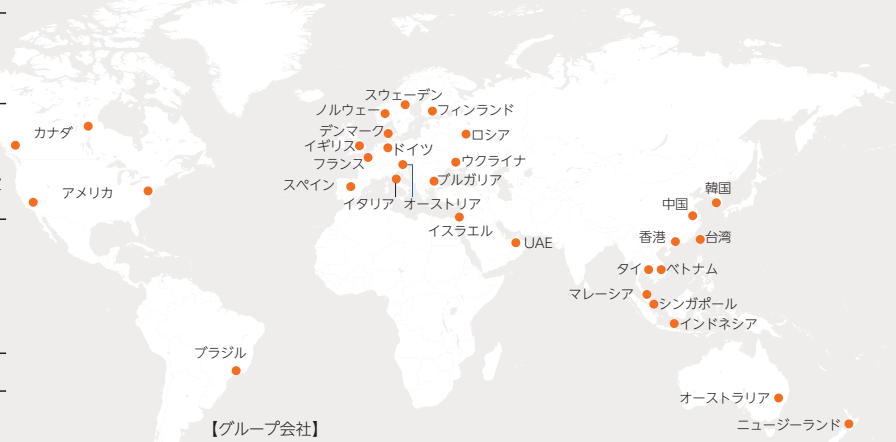
国内拠点

【グループ会社】
(株)日本システムプロジェクト
(株)セハージャパン

取締役および監査役（2023年6月24日現在）

地　位	氏　名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	鈴木　美奈子	
代表取締役副社長	谷　口　　徹	
社外取締役	髙橋　正己	株式会社ロイヤルメディカルクラブ　代表取締役社長
社外取締役	髙橋　昭夫	バイオマス・フューエル株式会社　社外取締役／株式会社 MTG　社外取締役
社外取締役	橋本　　泰	株式会社 YU-WA Creation Holdings 社外取締役／合同会社ブリッジパートナーズ代表社員
常勤監査役	河　野　　淳	
社外監査役	村井　淳也	村井法律会計事務所弁護士、公認会計士
社外監査役	中島　敬方	

海外ネットワーク



【グループ会社】
(米国子会社)SUZUMO INTERNATIONAL CORPORATION
(シンガポール合弁子会社)SUZUMO SINGAPORE CORPORATION PTE. LTD.
(UAE持分法適用会社)Bluefin Trading LLC

株式の状況

（2023年3月31日現在）

発行可能株式総数 ……32,000,000株
発行済株式総数 ……12,960,000株
株主数 …… 4,690名
1単元の株式数 …… 100株

大株主

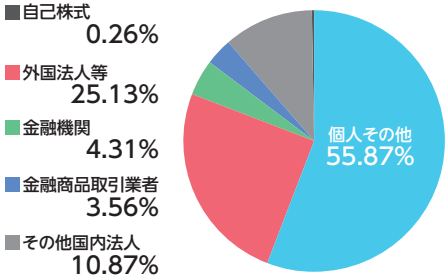
株主名	持株数	持株比率
GULF JAPAN 1	1,797,000	13.90%
鈴木　美奈子	1,626,000	12.58%
鈴木　映子	1,626,000	12.58%
合同会社アン・コーポレーション	1,237,480	9.57%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE THE HIGHCLERE INTERNATIONAL INVESTORS SMALLER COMPANIES FUND	655,800	5.07%
鈴茂器工取引先持株会	615,880	4.76%
立花証券株式会社	300,200	2.32%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	287,000	2.22%
岩本　庄司	200,000	1.55%
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	197,000	1.52%

（注 1）持株比率は小数点以下第 3 位を四捨五入しております。
（注 2）持株比率は、自己株式（34,014 株）を控除して計算しております。

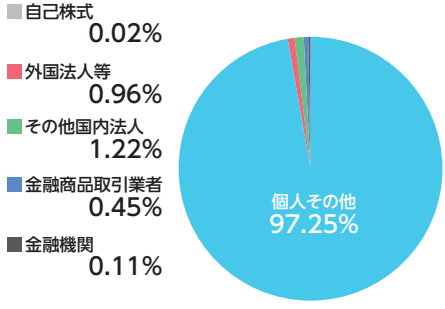
株主メモ

事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
基準日	期末配当金　3 月 31 日 中間配当金　9 月 30 日 定時株主総会　3 月 31 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人特別口座　口座管理機関	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL　0120-232-711 郵送先 〒 137-8081 新東京郵便局私書箱第 29 号 三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部
上場市場	東京証券取引所（スタンダード市場）
公告方法	電子公告（https://www.suzumo.co.jp/ir/） （ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。）

所有者別株式数



所有者別株主分布状況



●お知らせ
1. 各種お手続きに関するご注意
(1)株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
(2)配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは「配当金振込指定書」を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問合せください。
(3)特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
(4)未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 期末配当金計算書について
配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「期末配当金受領証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「期末配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認の資料としてご利用いただけます。

WE LOVE RICE SUZUMO　鈴茂器工株式会社
東京都中野区中野4-10-1中野セントラルパークイースト　（〒164-0001）
TEL：03-3993-1371(代)
URL：https://www.suzumo.co.jp/